

早稲田大学 政治経済学部 国語(古典) 講評

(総合分析)

出題形式	マーク式・記述式併用
試験時間	90分(古漢1問、現代文2問)

(大問別講評)

(一) 古漢融合問題。出典:古文=二条良基『小島のくちずさみ』、漢文=白居易の詩。

(本文字数:古文=約1500字=昨年より約100字増加。漢文=約70字=昨年より約30字減少。

設問数:12=昨年より1問増加。)

小問	難易度	コメント
問一・A	やや難	[文脈把握]直前の内容から判断する。
問一・C	やや難	[文脈把握]「たどたどし」の意味と、直前の内容から判断する。
問一・F	標準	[文脈把握]直前の「武士めきたれ」との対比、及び、直後の内容から判断する。
問二	標準	[文脈把握]直後の「まだ夜深きに」とのつながりから判断する。
問三	やや易	[文法問題]甲の第二段落と各選択肢を丁寧に照合していく。
問四	やや易	[文脈把握]筆者たちは都から小島に避難してきている。
問五	標準	[文脈把握]「ふる」に「経る」と「降る」、「雲居」に「空」と「皇居」の意味が掛けられている。
問六・	標準	[和歌]イは「おいそ」が「古い」と「五十」、「杉」が「過ぎ」と「杉」の掛詞。
問六・	やや難	[和歌]「表面上は叙景に徹した歌」は見当たらない。
問七	難	[内容合致]各選択肢と本文を丁寧に照合していく。イは第一段落の内容と合致する。
問八	易	[文学史]二条良基の『菟玖波集』は頻出。
問九	標準	[返り点]漢文の語順を把握していれば容易。
問十	易	[語句の意味]「故人」は重要語句。
問十一	易	[文脈把握]「律詩の規則から判断し」と示されているので容易。対句に着目する。
問十二	やや難	[文脈把握]漢詩の内容から判断する。

(総合コメント・今後の指針)

大問一について。古文は『小島のくちずさみ』。設問は、文脈把握、文法、和歌の修辞法、文学史、と多岐にわたり、総合力が求められた。「いそ」=「五十」、「雲居」=「空・皇居」、などを知っていないと解けない設問もあった。ふだんから古文単語集などでどれだけ多くの語彙を身につけているかで点差がひらいたであろう。

漢文は白居易の詩が出題された。設問はほとんどが基本的なものだったので、高得点をとった受験生が多かったのではないだろうか。早稲田は漢詩をよく出題するので、漢詩の学習は必須である。

早稲田大学 政治経済学部 国語(現代文) 講評

(総合分析)

出題形式	マーク式・記述式併用
試験時間	90分(古漢1問、現代文2問)

(大問別講評)

(二) 随筆文。出典：岡本綺堂の文章。

(本文字数：約 2200 字 = 昨年より約 300 字増加。設問数：8 = 昨年と同じ。)

小問	難易度	コメント
問十三	易	【文学史】二の『明暗』が漱石未完の絶筆であることは常識。
問十四	易	【漢字】読み書き各1題。書き・読みともに頻出。
問十五	易	【空欄補充】副詞と接続語の補充。空欄の前後から容易に判断できる。
問十六	やや難	【傍線部説明】理由は傍線部の直後にあり、それを(注)が補っている。ホが紛らわしいが筆者の心情が直接の理由ではない。
問十七	易	【修辞法】「直喩」と「隠喩」の意味を知っていれば容易に発見できる。
問十八	やや難	【空欄補充】気候に関する常識が問われている。6頁4行目がヒントとなる。
問十九	標準	【空欄整序】整序文中の指示語・接続語、及び、空欄直後とのつながりから判断する。
問二十	やや易	【傍線部説明】空欄7以後の内容から容易に判断できる。

(三) 評論文。「説明と物語」について。

(本文字数：約 2800 字 = 昨年より約 200 字増加。設問数：7 = 昨年より2問減少。)

小問	難易度	コメント
問二十一	標準	【空欄補充】「上手の手から水が漏れる」という慣用句。
問二十二	易	【空欄補充】空欄を含む前後の文脈から容易に判断できる。
問二十三	易	【空欄補充】慣用句。次の行の「訥々と話す」との対比から考える。
問二十四	難	【趣旨把握】2行前の「説明」「物語」についての一つの定義についての対比から考える。空欄8の1行前にある「解剖学者」についての記述もヒントとなる。
問二十五	やや易	【傍線部説明】「説明」について繰り返されている筆者の主張から判断する。
問二十六	やや難	【傍線部説明】口が紛らわしいが「創造」について述べられていない。ホの「共同制作」は、「共感のなかで……創造し」の言い換え。
問二十七	標準	【趣旨把握】「説明」「物語」についての筆者の主張を文章全体から判断する。

(総合コメント・今後の指針)

大問二は、随筆。大正時代に書かれたとはいえ、現代の文体で書かれているので読みやすかったであろう。問十六は難しいが、本文だけでなく(注)も手がかりにすれば解きやすい。ふだんから(注)にもしっかり目を通すように努めよう。問十六以外の設問は基本的なものばかりなので、多くの受験生が高得点をとったと思われる。

大問三は、「説明と物語」をテーマにした評論文。典型的な対比構造で、内容も難しくないのが、抵抗なく読めた受験生が多かったであろう。設問は、問二十四と問二十六以外は難しくない。「上手の手から水が漏れる」や「立て板に水」などの表現を知っていないと解けない設問も出題された。語彙の学習をしてきた受験生は高得点がとれたのではないだろうか。